

障害者に対する態度に関する横断的研究(2)

— 受容的態度と関連する知識項目に関する検討 —

豊村 和真
笹尾 絵梨

目次

| | |
|-------|---|
| 問題と目的 | 態度について 受容的態度に影響する要因について 受容的態度尺度の因子構造と尺度の問題点 接触経験について 知識について 知識による態度測定について |
| 目的 | |
| 方法 | 被験者 質問紙 手続き |
| 結果と考察 | 障害者に対する態度項目について 因子分析による態度の分析 障害に関する知識項目について 正解率の高い項目 正解率の低い項目 わからないと答えた項目 知識項目の集約 態度と知識の関連性について 全体的考察 |
| 文献 | |

問題と目的

態度について

藤原(2001)は、態度について従来の研究で明らかになった点を以下のように要約した。①態度とは、反応のための先有傾向、準

備状態である。従って、態度は刺激と反応の媒介物であり、直接には観察不可能な構成概念である。②態度は常に対象を持つ。対象は、人物、集団、価値、概念、制度といった様々なものである。③一定の対象について、「良い-悪い」「好き-嫌い」といった評価を含み、その評価は、ポジティブからネガティブにその方向と強度を変える。④一時的な状態である動機や動因といった言葉とは区別される意味で、いったん態度が形成されると比較的安定しており、持続的である。⑤態度は、先天的なものというよりは、むしろ学習によって獲得されるものである。⑥個々の対象に対する個別的態度は、お互いに関連を持ち、構造化され、態度群、態度布置を形成する。

しかしながら、豊村・菊池(2007)および豊村・佐藤(2008)では、態度、意識、イメージに関する用語について明確に分けられないということから、定義の細部についてはあまり問わないという立場で考察を進めていた。本報告でも、知見の紹介に際しては先行研究で使用した用語をそのまま記述した。また態度の中でも障害者に対してどれだけ受容的であるかという受容的態度について主として検討した。

受容的態度に影響する要因について

これまでの障害児・者に対する態度に関する研究で、障害児・者への受容的態度に影響

を与える要因として多く指摘されているものとして、障害者との接触要因と障害に関する知識要因があげられる。

Jordan (1971) は、態度に関わる要因として、①人口の統計要因(性別、年齢、収入)、②接触経験要因(接触の質や量、接触の自発性、接触の喜び)、③社会心理学的要因(価値観など)、④知識的要因(態度の対象への事実に基づく情報量)の4つを指摘した。

また、三沢(1984)は態度の改善に重要な観点として、①知識・情報の提供、②接触機会の拡大、③公正な能力観の普及、④過剰な競争意識の排除、⑤価値観をあげた。

Sandler and Robinson (1981) は、接触と知識は態度と関連している要因として頻繁に仮定される要因であるとし、その重要性を指摘した。

受容的態度尺度の因子構造と尺度の問題点

障害者に対する受容的態度を測定する方法はこれまでにいくつも研究されている。近年では、Lickert, Guttman, Thurstone等の標準的尺度に基づく質問紙を作成し因子分析をしているものが多い。しかし各研究の因子構造は様々であり、一致した結果は得られていない(川間, 1996)。

河内(1990)は、「視覚障害者に対する多次元的尺度」をもとに、視覚障害者以外の障害者に対する態度をも測定できる尺度の開発を試みた。その尺度には「拒否的態度」、「統合教育」、「特殊能力」、「自己中心性」、「交流の当惑」の5因子が含まれている。この尺度は、視覚障害者以外の肢体不自由児・者、聴覚障害児・者に対する態度を弁別して測定することがある程度可能である(河内, 1990)。

菅原(2003)は、この河内(1990)の尺度のうち25項目を削除し、ワーディングを変更するなどして構成しなおし、「積極的行動態度」、「肯定的態度」、「好意的態度」、「能力肯定態度」の4因子を抽出した。

生川(1995)は、精神遅滞問題に対する態度の測定に有効と見せる、「実践的好意」、「能力肯定」、「統合教育」、「地域交流」、「理念的好意」の5個の因子からなる態度尺度を構成した(α 係数は.663から.867)。

豊村・佐藤(2008)は、低学年の児童を含めて身体障害者に関する態度を測定し、主因子法、バリマックス回転の結果、「個人的関与」因子、「共生能力(能力肯定)」因子、「社会的関与」因子を抽出し、これらの因子が基本的概念であると考察した。

本報告では、新たに尺度を構成するよりも、既存のある程度信頼性の高い尺度を使用するのが適切と考えた。また障害の種類を特定せずに受容的態度を測定するという設定だったため、複数の障害者に対する態度を測定するように配慮された質問紙から作られた菅原(2003)の尺度を使用する。

接触経験について

障害者との接触経験については川間(1996)などに詳しいが、これについては本報告では論じない。概ね、接触の形態が間接的より直接的な場合に(Donaldson, 1976など)、また非構造的より構造的な場合に(山内, 1982など)、被験者年齢が年長より年少の場合に(Henry, 1957; 山内, 1984など)、そして接触頻度が増加する場合に(山内, 1984など)、より好意的になることが多いようである。

知識について

障害に関する知識が受容的態度に及ぼす影響については、関連性があるとするものが多い(川間, 1996; 三沢, 1971; 三沢, 1985などによる)。

例えば、生川(1995)は、精神遅滞の出現率に関する知識を持っている人の方が、実践的な好意度、統合教育への同意、精神遅滞者との交流を推進する意欲が高かったとした。

又、具体的な知識との関連については、川

口(2003)が、「精神分裂病の改称」の知識と、障害者との積極的な行動態度、および障害者に対する受け入れの態度との関連があることを指摘した。また「特殊学級とは」「視覚障害者の誘導法」「車いすブレーキの有無」の知識と、障害者に対する肯定的な態度との関連も指摘した。

しかしながら障害者に対する態度と知識との関係は組織的に検討されたことはなく、又、態度についても、因子が研究ごとに異なる様相を示していると言ってもよい状態であり、知識に関してもそれほど項目数があったわけでもなく信頼性にも疑問が残っていた。

そのため豊村(2004)において障害者に対して受容的になる知識の性質について検討した。しかし、豊村(2004)では知識に関する項目数35と比較的少なかつた等の理由でそれほど明快な結果にならなかった。

知識による態度測定について

知識と態度の関連について特に検討を要する理由を以下に述べる。

先に述べたように障害者に対する態度研究の見解では、障害に関する知識が障害者に対する態度に関連する要因であることを示唆している。この点から障害者に対する態度と関連する知識があるのなら、逆に、その知識の有無をもとに受容的態度を測定する可能性が存在する。

類似の例としてビネーの知能検査の作成されたプロセスを考える。

アイゼンク(1964)は、ビネーは知能検査を開発する際、難しい問題や比較的容易な問題を作成し、さまざまな年齢層の児童の正答率をもとに、例えば3歳児なら普通であれば正しい答えを出せるような問題を3歳級の問題としてまとめて分類を行い、その結果精神年齢という考えを導入するに至ったと説明している。

より詳細な説明をすると、ビネーに与えら

れた課題は、先行する知能検査が無い中で、知能検査を作成し、就学年齢に達した児童の中に公教育をうけることが困難な者を鑑別診断することであったといえる。この時に、反応速度が速いとか、記憶力が大きい等の知能(要素)の定義または性質を出発点として作成したテストは全て妥当性が乏しい結果となったという。そこでビネーは逆に絶対的な知能の高低群(低年齢～高年齢児童群)を先に定め、その高低に応じて通過率が異なるような項目を残すという方法で、世界初の知能検査を作成した。

ここで「知能」に「態度」を、「知能検査の項目」に「知識」を当てはめると、今回構想する知識項目による態度測定という考えが成立する。すなわち障害者に対する受容的態度が高くなればそれにつれて正解率も上昇するような問題のみを採用することを繰り返していけば、これらの知識項目バッテリーが受容的態度を測定するようになると考えられる。

このような知識という客観性の高い指標を用いることで、歪曲されやすい受容的態度を直接聞く方法よりも信頼性が高い結果が得られると思われる。

このまだ遠い目標に向かって、障害者に対する受容的態度と知識の関連性について発達的に検討をする必要がある。即ち、個々の項目についていわば総当たりに検討することは笹尾(2004)で行ったが、本報告ではそれらをもう少しまとめる工夫について報告し、以後の分析の基礎となるデータを得る必要がある。

目的

問題意識で述べたように、障害者に対する受容的態度と関連している要因として、以前から知識が多く取り上げられている。しかし、その知識の質について調査している研究は少なく、障害者に対する受容的態度と障害に関

する知識との関連性について、詳細に調べた研究はほとんどみあたらない。受容的態度と関連する知識がどのようなものかある程度包括的に調査する必要がある。そこで、今回の研究ではまず障害者への受容的態度と関連する知識を選び出し、その性質について分析し、基礎的データを得ることを目的とする。本報告では先行研究より知識項目を増やしてより幅広い障害に対する知識を用意し、そして対象となる被験者も大学生から高校生にまで範囲を広げ再度調査を行った。

方法

被験者

大学生 530 名、短大生 182 名、高校生 209 名の合計 921 名を対象として質問紙を配布したが、欠損値がみられたもの等を削除して最終的には、大学生 465 名(男性 123 名、女性 342 名)、短大生 148 名(女性 148 名)、高校生 185 名(男性 87 名、女性 98 名)合計 798 名を被験者とした。なお、結果以降では短大と大学をまとめて大学群とした。

質問紙

質問紙は、①フェイスシート(性別、年齢、障害者との接触経験、頻度の有無等)、②豊村(2004)で使用した受容態度尺度 25 項目(7 件法)、③知識項目として、豊村(2004)で使用した項目を 35 項目を参考にして、新たに項目を追加した 75 項目からなっていた。ただし③は、複数回答を許容した項目があったため本報告では 79 項目として扱った(はい、いいえ、わからないの 3 件法、一部 5 件法)。

手続き

大学生・短大生は講義時間内に質問紙を配布し、その場で回収した。

配布の際には、データは全て統計的に処理され、個人の回答をとりあげることはしない

ことを告げた。また回答欄の「わからない」に関しては、質問の意味がわからない場合、あるいは回答に自信がない場合につけること等の注意を書いた教示文を作成し、読み上げた。高校生は、授業時間や HR 時等に教員が質問紙を配布し、上記の教示を読み上げた後調査を実施しその場で回収した。なお、調査期間は 2004 年 10 月中旬であった。

結果と考察

障害者に対する態度項目について

態度各項目の分布の形状について検討した。項目ごとに平均値(M)と標準偏差(SD)を計算して、 $M \pm SD$ の値を求めた。天井効果は、 $M + SD$ 値が、最大値の項目と一つ低い値の中間(=6.5)より大きく、 $M - SD$ 値が中央値(4)より大きい場合と定義した。同様に床効果を $M - SD$ 値が 1.5 より小さく、 $M + SD$ 値が 4 より小さい場合と定義した。天井効果を示した項目は、7_障害のある子どもは普通の学校に入ることによって多くの経験をすることができると思う、9_障害のある人は自分の境遇に甘えていると思う、19_障害のある人は、いつも他人の援助を待っていると思う、20_障害のある人は、すべての面で劣っていると思う、の 4 項目であった。

これらの項目は、ヒストグラムにより形状も確認した。天井効果がみられるというより、低得点(1-3)は非常に少なく、中央~高得点分(4-7)が一樣に高い形状をしているので、その内容がむしろ障害者に対する態度としては削除しにくい項目であることも考えて、そのまま分析対象とした。

因子分析による態度の分析

一回目の因子分析(主因子法バリマックス回転)により、共通性が極端に低い項目、21_障害のある人もない人も記憶力は同じだと思(共通性 0.06)を分析対象から除外した。

残りの態度 24 項目について、再度因子分析（主因子法バリマックス回転）を行ない、最終的に抽出された因子とその項目を表 1 に示した。なおこれらの因子は、ほぼ単純構造をしているため、斜交（プロマックス）回転しても解はほとんど変わらなかった。

第 1 因子は、個人的に、障害者と交流を持ちたい、抵抗感無く話せる等の内容から、豊

村（2007）に従って「個人的関与因子」と名付けた。なお、笹尾（2004）では「仲間意識因子」としていた。

具体的な項目の内容は表 2 の通りである。

第 2 因子は、他人に対して親切であるとか、我慢強い等の内容から、豊村（2007）の示唆から「肯定評価因子」とした。

笹尾（2004）では「過大評価因子」として

表 1 態度項目の因子分析による結果

| 因子分析 | 主因子 | バリマックス回転 | 全体 | | | | |
|------|---------|----------|--------|--------|--------|------|------|
| | | | | 因子 1 | 因子 2 | 因子 3 | 因子 4 |
| qr12 | 抵抗感なく話 | 0.771 | 0.052 | 0.141 | 0.065 | | |
| qr16 | 迷無援助できる | 0.716 | 0.148 | 0.100 | 0.061 | | |
| qr10 | 迷無手を貸せる | 0.663 | 0.165 | 0.004 | -0.052 | | |
| qr03 | 積極的交流 | 0.659 | 0.254 | 0.098 | 0.257 | | |
| qr24 | 友人になりたい | 0.639 | 0.269 | 0.164 | 0.236 | | |
| qr05 | ためらい無尋ね | 0.637 | -0.008 | 0.263 | -0.028 | | |
| qr01 | 一緒に仕事 | 0.574 | 0.249 | 0.120 | 0.223 | | |
| qr06 | 喜び楽しみ共有 | 0.571 | 0.103 | 0.220 | 0.254 | | |
| qr23 | 障害者へ遠慮無 | 0.380 | -0.004 | 0.153 | -0.003 | | |
| qr15 | 他人に親切 | 0.156 | 0.729 | 0.134 | -0.001 | | |
| qr11 | がまん強い | -0.046 | -0.552 | -0.033 | -0.041 | | |
| qr08 | 感覚優 | -0.071 | -0.545 | -0.159 | -0.175 | | |
| qr22 | 考え敏感に理解 | -0.098 | -0.531 | -0.077 | -0.024 | | |
| qr17 | 態度謙虚 | 0.107 | 0.527 | 0.049 | -0.193 | | |
| qr14 | 芸術的才能有 | -0.053 | -0.517 | -0.110 | 0.162 | | |
| qr02 | 相手考え行動 | 0.194 | 0.505 | 0.092 | 0.131 | | |
| qr13 | 普学活動可能 | 0.205 | 0.169 | 0.766 | -0.018 | | |
| qr04 | 普学教育可能 | 0.188 | 0.060 | 0.708 | -0.033 | | |
| qr07 | 普学多経験 | 0.103 | 0.167 | 0.637 | 0.146 | | |
| qr18 | 普学安全生活 | 0.169 | 0.101 | 0.613 | -0.164 | | |
| qr25 | 普学理解深まる | 0.259 | 0.231 | 0.561 | 0.245 | | |
| qr20 | 劣っている | 0.141 | 0.044 | 0.099 | 0.594 | | |
| qr19 | 援助待っている | 0.077 | -0.095 | -0.035 | 0.576 | | |
| qr09 | 境遇に甘え | 0.087 | 0.028 | -0.032 | 0.568 | | |

表 2 個人的関与因子（因子 1）項目

| |
|-------------------------------|
| 項目 12_障害のある人と抵抗感なく話せる |
| 項目 16_障害のある人が困っているとき、迷わず援助できる |
| 項目 10_障害のある人をみると、迷わず手を貸せる |
| 項目 03_障害のある人と積極的に交流したい |
| 項目 24_障害のある人と友人になりたい |
| 項目 05_障害のある人にためらいなく、ものを尋ねられる |
| 項目 01_障害のある人に対して変な遠慮はしない |
| 項目 06_障害のある人と喜びや楽しみを分かち合える |
| 項目 23_障害のある人に対して変な遠慮はしない |

いた。

具体的な項目の内容は表3の通りである。

表3 肯定評価因子(因子2)項目

| |
|--|
| 項目 15_障害のある人は他人に対して親切だと思ふ |
| 項目 11_障害のある人は、がまん強いと思ふ |
| 項目 08_障害のある人は、障害のない人よりもいろいろな感覚が優れていると思ふ |
| 項目 22_障害のある人は他の人が何を考えているか敏感に感じとれると思ふ |
| 項目 17_障害のある人のほとんどが、ひかえめで謙虚であると思ふ |
| 項目 14_障害のある人のほとんどが、人並み以上に優れた芸術的才能を持っていると思ふ |
| 項目 02_障害のある人は相手のことをよく考えて物ごとをおこなうと思ふ |

第3因子は、豊村(2004)に従い、「社会的関与因子」とした。

笹尾(2004)では、教育関係であることから「統合教育因子」としていた。

具体的な項目の内容は表4の通りである。

表4 社会的関与因子(因子3)項目

| |
|--|
| 項目 13_障害のある子どもは普通の学校でも十分に活動できると思ふ |
| 項目 04_普通の学校でも障害のある子どもを十分に教育できると思ふ |
| 項目 07_障害のある子どもは普通の学校に入ることによって多くの経験をすることができると思ふ |
| 項目 18_障害のある子どもは普通の学校で安全に生活できると思ふ |
| 項目 25_障害のある子どもは普通の学校に入れるとお互いの理解が深まると思ふ |

第4因子は、豊村(2007)の示唆に従い「否定評価因子」とした。笹尾(2004)では「否定的態度因子」としていた。

具体的な項目の内容は表5の通りである。

表5 否定評価因子(因子4)項目

| |
|---------------------------------|
| 項目 20_障害のある人は、すべての面で劣っていると思ふ |
| 項目 19_障害のある人は、いつも他人の援助を待っていると思ふ |
| 項目 09_障害のある人は自分の境遇に甘えていると思ふ |

障害に関する知識項目について

正解率の高い項目

障害に関係する知識のうち正答率の高い項目は高い順に以下の通りであった。

08_筆談有効性(聴覚障害者とコミュニケーションをとる時は、筆談も有効)、01_障害児出生(どこの家庭にも障害児が生まれる可能性がある)、59_イントネーション(耳がきこえなくなると、話すときのイントネーションがおかしくなる)、74_ノーマライゼーション(ノーマライゼーションの意味~5択)、07_養護学校種類(養護学校は一種類だけではない)、46_養学入学義務(障害児は養護学校しか入れない)、32_車いすブレーキ(車いすにはブレーキがついていない)、33_自閉症幼児期病(自閉症は幼児期の一時的な病気)、22_聴障者発声(耳がきこえない人は、声を出すこともできないと思ふ)、37_補聴器効力無(補聴器では効果がみられない聴覚障害がある)。
これらの項目は正答率が約95~85%であり、実際の経験・生活場面やテレビなどで知識を得られる項目が多かった。

正解率の低い項目

障害に関係する知識のうち正答率の低い項目は高い順に以下の通りであった。

70_盲導犬着衣(盲導犬に服を着せる理由~5択)、55_障害性差(障害に性差はない)、26_障害者保護法(障害者保護法という法律がある)、63_視障者歩道橋(歩道橋は視覚障害者にとって不便)、51_点字ブロック規格(点字ブロックは色も形も決められている)、54_知障者痴呆(知的障害者は痴呆にはならな

い), 28_肢不児重複障害 (肢体不自由児は知的障害を合わせ持つ場合が多い), 47_電動義足 (電動義足がある), 15_養学入学条件 (養護学校は障害児しか入れない), 03_盲導犬信号識別 (盲導犬は信号の色が判別できる)

これらの項目は正答率が約60~40%であり, 表現・語句のもっともらしさや差別的な要素が影響を与えた可能性が考えられる。

わからないと答えた項目

障害に関係する知識のうちわからないと答えた項目はその割合の高い順に以下の通りであった。

35_点字ブロック5種(点字ブロックの形は全部で5種類), 53_てんかん知障害 (てんかんは知的障害の一種), 69_点字の点数 (普通の点字で使われる点の数はいくつでしょうか~5択), 73_療育手帳利用者 (療育手帳はどの障害者のためのものでしょうか~5択), 34_身障者補助犬法(身体障害者補助犬法という法律がある), 64_知障者人数 (今は知的障害児者の人数は増加傾向にある), 06_統合失調症 (精神分裂病は今, 統合失調症と呼ばれる), 54_知障者痴呆 (知的障害者は痴呆にはならない), 10_障害出現率(障害の出現率は, 人口1000人中1人以上), 20_視障者夜間照明 (一人暮らしの視覚障害者は夜電気をつける)

これらのわからないと答えた割合(不明率)が約65~45%であり, 障害者福祉に関する専門的な知識の項目が多かった。

知識項目の集約

項目の個別の正解率, およびそれらの態度との関連については, 笹尾(2004)で詳細に述べられている。本報告では, それを概括的に把握するために, 知識に関する項目79項目を, その内容から一般知識, 社会知識, 共生知識の3群に分けた。

一般知識は障害の性質などの一般的な知識36項目であり, 社会知識は, 欠格条項や雇用

義務などの広く社会生活上直面する知識25項目であり, 共生知識は視覚障害者の杖の色など共生する際に必要な知識についての18項目であった。

これらの項目に関する正答率(正解率)およびわからないと答えた率(不明率)を学校別および性別に表6に示した。表中の単位についてない値は性別学校別の%値である。網掛けは, 正答率については高校→大学で上昇, 不明率は低下したものを示している。この傾向について, 一般知識, 社会知識, 共生知識のそれぞれの最下段に個々の値中何項目が該当するかを示し, その割合(%)を示している。正答率は高校から大学にかけて上昇する項目が多いが, すべての項目で一般知識, 社会知識, 共生知識の順になっていることがわかる。

態度と知識の関連性について

因子分析の結果得られた態度4因子と, 知識3群間の関連性について検討するため, 正準相関分析を行った(柳井, 2005による)。

その結果を表7に示す。表7は, 第1正準相関および第2正準相関までの正準負荷量, 寄与率, 累積寄与率, 冗長性指数および正準相関係数を示したものである。

バートレットの正準相関係数の検定では, 第1正準相関のみ有意($P < 9.91 \times 10^{-9}$)となったが, 第2正準相関の値まで示した。また第1正準変量の第1群と第2群の散布図を図1に示した。正準負荷量は, 正準変量とそれを構成する変量との相関係数である。また寄与率は正準変量が変量群を説明する割合を示す。そして冗長性は正準変量が相手側の変量群を説明する割合を示すものである。寄与率 \times 正準相関係数の2乗の値に等しい。両群に共通する要因を取り出していると考えられるため, 2群の冗長性指数が大きくて同じくらいの値であることが望ましい。

また表から, 態度得点と関連する知識は,

表 6 学校別性別正解率・不明率

表の値は性別学校別の%値になっている。網掛けは、正答率については高校→大学で上昇、不明率は低下したものの、表中の分数は網掛けの割合

| 分類 | 項目名 | 正答率 | | | | 不明率 | | | |
|------------------|----------------|--------------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|-------|
| | | 男性 | | 女性 | | 男性 | | 女性 | |
| | | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 |
| 一 般 知 識 | vn01 障害児出生 | 85.65 | 90.64 | 91.10 | 96.83 | 12.35 | 7.54 | 8.90 | 2.30 |
| | vn03 盲導犬信号識別 | 44.96 | 42.75 | 45.11 | 45.07 | 12.90 | 15.50 | 13.53 | 15.63 |
| | vn04 言障出現時期 | 63.98 | 73.66 | 79.25 | 77.60 | 20.32 | 18.03 | 16.45 | 15.48 |
| | vn06 統合失調症 | 20.79 | 56.74 | 28.43 | 48.09 | 74.02 | 39.77 | 68.25 | 46.57 |
| | vn09 ダウン症症状 | 49.04 | 60.80 | 55.46 | 54.20 | 31.66 | 21.82 | 31.18 | 25.99 |
| | vn10 障害出現率 | 34.73 | 30.79 | 29.79 | 35.27 | 44.29 | 41.05 | 49.78 | 46.46 |
| | vn13 手話世界共通 | 36.77 | 45.54 | 51.53 | 51.91 | 14.21 | 11.55 | 9.54 | 13.47 |
| | vn17 ダウン症顔 | 54.62 | 76.97 | 74.93 | 81.53 | 27.49 | 15.99 | 16.16 | 12.78 |
| | vn18 障害者犯罪率 | 68.49 | 69.74 | 67.21 | 65.31 | 17.89 | 21.38 | 23.26 | 26.50 |
| | vn20 視障者夜間照明 | 30.53 | 35.73 | 26.07 | 34.47 | 38.93 | 38.95 | 44.85 | 42.56 |
| | vn21 肢不原因 | 25.85 | 46.27 | 51.52 | 47.73 | 25.44 | 21.06 | 27.78 | 24.02 |
| | vn22 聴障者発声 | 76.76 | 83.04 | 85.93 | 86.94 | 3.47 | 4.13 | 4.64 | 3.29 |
| | vn25 自閉症主症状 | 33.97 | 48.66 | 41.87 | 58.51 | 9.61 | 10.01 | 8.89 | 7.72 |
| | vn27 点字漢字表記 | 17.52 | 29.40 | 15.39 | 20.18 | 30.40 | 38.62 | 34.58 | 46.29 |
| | vn28 肢不児重複障害 | 9.34 | 14.14 | 11.56 | 20.32 | 34.54 | 32.74 | 36.38 | 36.06 |
| | vn32 車いすブレーキ | 75.85 | 84.56 | 86.35 | 90.63 | 10.19 | 8.95 | 6.95 | 3.05 |
| | vn33 自閉症幼児期病 | 78.21 | 88.71 | 88.04 | 89.91 | 11.44 | 5.51 | 8.80 | 7.90 |
| | vn35 点字ブロック5種 | 45.91 | 33.19 | 37.23 | 24.42 | 50.62 | 61.86 | 59.10 | 70.93 |
| | vn37 補聴器効力無 | 77.81 | 83.92 | 85.32 | 87.39 | 19.49 | 13.34 | 12.31 | 10.46 |
| | vn38 精神病室施設 | 37.68 | 52.62 | 32.66 | 48.99 | 26.60 | 33.56 | 33.51 | 28.24 |
| | vn42 てんかん感染 | 42.09 | 62.25 | 39.05 | 54.53 | 54.16 | 31.43 | 59.59 | 42.21 |
| | vn53 てんかん知障害 | 21.90 | 36.83 | 14.81 | 30.18 | 66.20 | 49.27 | 79.62 | 58.77 |
| | vn54 知障者痴呆 | 5.66 | 4.10 | 4.18 | 8.26 | 43.42 | 37.09 | 50.09 | 45.52 |
| | vn55 障害性差 | 18.70 | 25.94 | 13.71 | 24.45 | 13.32 | 15.06 | 17.32 | 15.98 |
| | vn58 知障者教育免除 | 38.38 | 48.78 | 40.22 | 47.65 | 19.99 | 29.98 | 33.76 | 31.37 |
| | vn60 健・障者区別 | 46.06 | 59.25 | 56.52 | 56.71 | 27.01 | 31.48 | 31.10 | 31.00 |
| | vn62 知障調査テスト | 59.71 | 56.64 | 63.24 | 60.99 | 22.40 | 28.42 | 25.43 | 28.00 |
| | vn64 知障者人数 | 58.17 | 33.73 | 45.08 | 36.73 | 38.74 | 50.04 | 49.55 | 49.06 |
| | vn71 ADHD | 17.98 | 48.78 | 22.62 | 44.97 | 17.48 | 12.46 | 13.93 | 10.88 |
| | vn72 UD | 80.61 | 73.30 | 78.60 | 77.05 | 2.27 | 0.00 | 1.43 | 1.01 |
| | vn74 ノーマリゼーション | 84.47 | 89.58 | 87.24 | 88.62 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | vn75_1 エレベータ鏡 | 6.39 | 26.15 | 12.64 | 29.20 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | vn75_2 カード丸穴 | 52.87 | 68.23 | 63.95 | 62.48 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| vn75_3 ATM 電話 | 17.46 | 18.25 | 19.50 | 23.79 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| vn75_4 ノック式ペン | 89.18 | 87.44 | 91.43 | 87.84 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| vn75_5 シャンプーボトル | 74.43 | 49.91 | 92.96 | 77.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 27/36(75.0%) | 24/36(66.7%) | | 17/36(47.2%) | | 24/36(66.7%) | | |
| 共 生 知 識 | vn08 筆談有効性 | 89.72 | 95.59 | 96.85 | 96.83 | 9.14 | 3.44 | 1.28 | 1.76 |
| | vn16 視障者杖誘導 | 55.90 | 76.90 | 71.66 | 75.50 | 25.64 | 16.47 | 13.52 | 14.62 |
| | vn24 車いす段差移動 | 52.80 | 83.22 | 68.65 | 83.23 | 21.22 | 6.82 | 15.29 | 8.74 |
| | vn29 言障者手話使用 | 75.97 | 74.86 | 67.17 | 70.58 | 15.47 | 15.66 | 21.17 | 21.53 |
| | vn41 紙幣視障者用印 | 51.91 | 45.90 | 58.89 | 54.34 | 15.43 | 25.61 | 11.97 | 21.62 |
| | vn43 腕健着患 | 40.82 | 53.93 | 69.49 | 58.04 | 40.43 | 32.55 | 23.84 | 30.58 |
| | vn44 全視障者点字打 | 80.04 | 82.37 | 79.53 | 82.66 | 10.73 | 12.04 | 15.72 | 12.69 |
| | vn45 うつ病者励まし | 54.39 | 67.37 | 69.92 | 67.21 | 26.20 | 21.00 | 21.87 | 25.45 |
| | vn47 電動義足 | 22.78 | 12.82 | 14.83 | 16.77 | 31.15 | 29.79 | 34.02 | 42.07 |
| | vn52 視障者信号機音 | 57.80 | 41.47 | 60.01 | 59.58 | 12.15 | 28.21 | 20.67 | 22.32 |
| | vn56 視障者缶区別 | 58.18 | 54.67 | 72.12 | 58.68 | 21.22 | 28.15 | 14.22 | 24.70 |
| | vn57 聴障者専用席 | 69.42 | 71.97 | 64.82 | 70.55 | 12.67 | 21.28 | 25.96 | 19.66 |
| | vn59 イントネーション | 95.82 | 91.34 | 96.17 | 93.93 | 2.18 | 4.81 | 2.86 | 4.57 |
| | vn63 視障者歩道橋 | 32.68 | 29.37 | 25.99 | 27.02 | 12.85 | 28.59 | 22.76 | 21.83 |
| vn65 視障者杖携帯 | 89.32 | 78.81 | 89.70 | 85.65 | 3.74 | 13.19 | 6.73 | 8.45 | |
| vn66 点字等間違い | 33.00 | 38.16 | 19.08 | 36.20 | 26.91 | 35.56 | 36.31 | 36.39 | |
| vn67 障害者用トイレ | 53.36 | 52.98 | 39.74 | 54.13 | 16.35 | 17.36 | 15.61 | 16.89 | |
| vn70 盲導犬着衣 | 31.38 | 20.25 | 41.47 | 32.26 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 8/18(44.4%) | 9/18(50.0%) | | 6/18(33.3%) | | 4/18(22.2%) | | |

障害者に対する態度に関する横断的研究(2)

| 分類 | 項目名 | 正答率 | | | | 不明率 | | | |
|--------------|---------------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|
| | | 男性 | | 女性 | | 男性 | | 女性 | |
| | | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 | 高校 | 大学 |
| 社会 知識 | vn02 障害者手帳 | 66.55 | 83.66 | 77.16 | 85.58 | 29.45 | 13.19 | 19.61 | 12.83 |
| | vn05 聴導犬 | 63.68 | 62.59 | 76.80 | 79.68 | 18.68 | 27.29 | 16.30 | 13.73 |
| | vn07 養護学校種類 | 81.06 | 90.96 | 92.29 | 90.40 | 15.76 | 6.49 | 4.72 | 7.86 |
| | vn11 雇用義務 | 33.41 | 41.27 | 31.74 | 34.63 | 28.18 | 14.61 | 27.43 | 27.70 |
| | vn12 吃音分類 | 18.92 | 33.09 | 25.77 | 36.66 | 47.44 | 25.58 | 25.76 | 27.31 |
| | vn14 精障児童期名 | 42.79 | 59.14 | 43.81 | 48.62 | 31.29 | 26.43 | 33.82 | 37.97 |
| | vn15 養学入学条件 | 55.01 | 23.88 | 44.10 | 32.54 | 18.88 | 34.21 | 22.72 | 23.25 |
| | vn19 障害年金娯楽使 | 44.40 | 54.45 | 35.22 | 38.63 | 21.45 | 14.51 | 24.53 | 18.35 |
| | vn23 フリースクール | 58.55 | 78.45 | 80.41 | 81.37 | 35.30 | 16.64 | 17.86 | 14.65 |
| | vn26 障害者保護法 | 10.23 | 14.08 | 8.28 | 10.10 | 34.80 | 35.76 | 28.65 | 33.25 |
| | vn30 精障者欠格条項 | 75.69 | 62.56 | 66.38 | 70.45 | 15.38 | 27.42 | 23.51 | 17.58 |
| | vn31 特殊学級 | 47.91 | 62.59 | 64.85 | 71.82 | 20.32 | 18.40 | 20.19 | 15.73 |
| | vn34 身障者補助犬法 | 41.68 | 27.44 | 46.85 | 32.77 | 42.26 | 52.27 | 43.83 | 53.03 |
| | vn36 機能障害 | 54.07 | 58.81 | 53.08 | 53.88 | 23.85 | 17.48 | 20.96 | 26.50 |
| | vn39 学習内容 | 37.82 | 26.23 | 39.22 | 27.91 | 23.88 | 38.97 | 24.29 | 34.32 |
| | vn40 措置制度 | 44.83 | 47.36 | 41.30 | 51.61 | 28.95 | 38.04 | 40.70 | 30.25 |
| | vn46 養学入学義務 | 85.54 | 83.37 | 87.24 | 90.84 | 6.14 | 12.11 | 9.60 | 5.55 |
| | vn48 法律上障害区別 | 50.79 | 52.55 | 37.32 | 37.06 | 20.80 | 27.12 | 32.84 | 35.13 |
| | vn49 養護学校無県 | 52.98 | 46.10 | 55.07 | 42.34 | 18.60 | 31.61 | 25.13 | 24.61 |
| | vn50 障害年金額 | 66.24 | 57.52 | 69.64 | 52.57 | 19.73 | 26.31 | 22.46 | 30.90 |
| | vn51 点字ブロック規格 | 21.60 | 18.07 | 22.99 | 19.98 | 30.47 | 33.69 | 20.80 | 32.96 |
| | vn61 点字世界共通 | 46.89 | 31.58 | 50.52 | 41.96 | 17.32 | 36.77 | 15.57 | 28.95 |
| | vn68 視障者杖の色 | 36.18 | 47.62 | 63.38 | 62.79 | 7.14 | 8.72 | 8.91 | 8.48 |
| vn69 点字の点数 | 27.93 | 10.61 | 40.86 | 20.13 | 23.67 | 10.18 | 12.88 | 11.84 | |
| vn73 療育手帳利用者 | 17.01 | 27.51 | 15.42 | 22.29 | 9.73 | 6.29 | 11.81 | 5.92 | |
| | | 14/25(56.0%) | | 14/25(56.0%) | | 11/25(44.0%) | | 13/25(52.0%) | |
| 知識項目全体 | | 49/79(62.0%) | | 47/79(59.5%) | | 34/79(43.0%) | | 40/79(50.6%) | |

表7 正準相関分析結果

| | 第1正準相関 | 第2正準相関 |
|--------|--------|---------|
| 知識得点 | | |
| 一般知識 | 0.9817 | -0.1557 |
| 共生知識 | 0.5855 | 0.6938 |
| 社会知識 | 0.7855 | 0.3739 |
| 寄与率 | 0.6412 | 0.2151 |
| 累積寄与率 | 0.6412 | 0.8563 |
| (冗長性) | 0.0417 | 0.0016 |
| 態度得点 | | |
| 個人的関与 | 0.8795 | -0.2608 |
| 肯定的評価 | 0.2290 | -0.4669 |
| 社会的関与 | 0.4205 | 0.0891 |
| 否定的評価 | 0.5927 | 0.7358 |
| 寄与率 | 0.3385 | 0.2089 |
| 累積寄与率 | 0.3385 | 0.5474 |
| (冗長性) | 0.0220 | 0.0015 |
| 正準相関係数 | 0.2551 | 0.0860 |

一般知識, 社会知識, 共生知識の順に大きい。知識得点と関連する態度は, 個人的態度がもっとも大きく, ついで否定的評価, 社会的関与, 肯定的評価という順であった。

しかしながら, 冗長性が0.0409, 0.0232と低く, 実質的にはこのようにまとめるとあまり実用的な意味は大きくはないと思われた。

なお, 不明と回答した個数について同様に正準相関係数を算出した。

第1正準相関係数は0.155 ($P < 0.02$)であり, 冗長性は0.010, 0.007という値であった。

全体ではあまり強い関連性は見られないため, 以下に知識項目を個別に検証した。知識は正解, 不正解, 不明という非連続的なデータであるため, 通常回帰分析は実施できない。そこでカテゴリカル回帰分析を実施した。その際各態度4因子得点も得点分布からそれぞれ上中下の3段階に区分した。

表8は4つの因子ごとに, 有意な変数を取り出したものである。

この表から全ての態度因子に影響する知識項目は, 「18_障害のある人が罪を犯す率は健

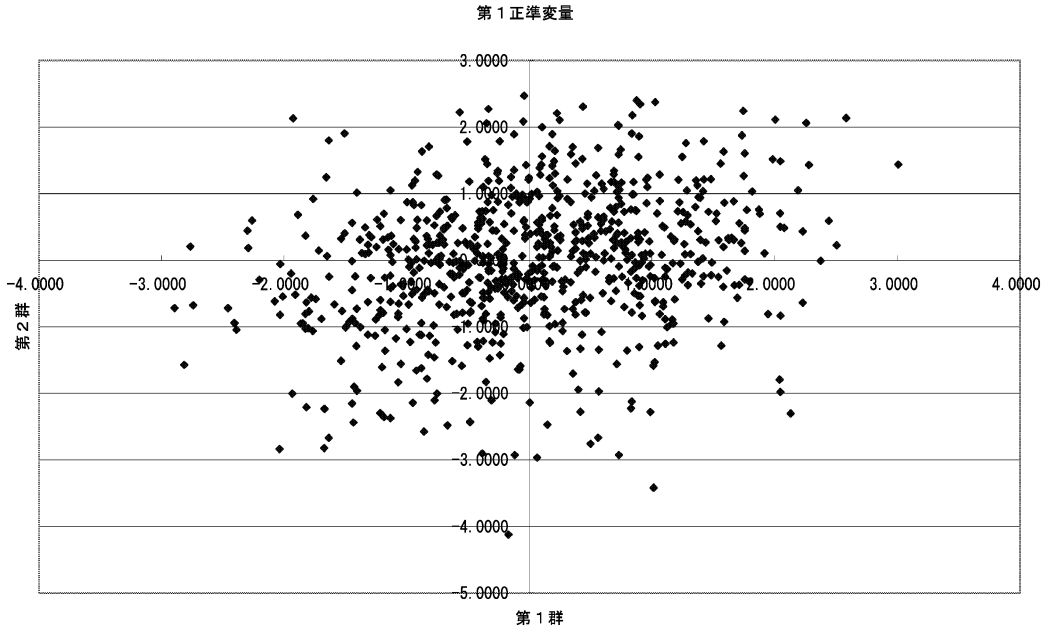


図 1 第 1 正準変量

常者に比べて高いと思う」,「25_自閉症の主な症状は、人との接触を嫌い、家に閉じこもりがちになることだと思う」の 2 項目だけであり、どちらも一般知識項目であったことがわかる。3 因子と関連した項目は「01_どこ家庭にも障害児が生まれる可能性があると思う」,「06_精神分裂病は今、統合失調症と呼ばれていると思う」,「22_耳がきこえない人は、声を出すこともできないと思う」,「33_自閉症は幼児期の一時的な病気であると思う」,「34_身体障害者補助犬法という法律があると思う」(社会知識),「49_養護学校がない県があると思う」(社会知識)であった。つまり、4 項目は一般知識、2 項目は社会知識であり、正準相関分析の結果同様、一般知識、社会知識、共生知識の順となった。

全体的考察

山際・田中 (1997) では、2 つの変数群を分析する方法について①正準相関分析、② 2 変数群を 1 群化した主成分分析 (または因子分析)、③主成分分析と回帰分析の組み合わせ

せ、を示している。

それに従って、本報告で用いた方法を当てはめると、①はそのまま実行した。②の方法については、態度の 24 項目と知識 3 群をそのまま区別せずに分析するということであるが、因子分析 (主因子法プロマックス回転) をすると、知識が一つにまとまってしまった。また、主因子法バリマックス回転をした場合は因子の単純構造が得られず、多数の因子に分かれてしまった。主成分分析を実施した場合もバリマックス回転に類似の結果が得られた。

③の方法は、今回の分析の各知識項目のデータが正解、不正解、不明のカテゴリデータであるため、主成分分析を使用できない(主成分分析はデータが連続量であることを要求する)。

その代わりに、態度得点を上中下に 3 分割して、4 つの態度因子について個別にカテゴリカル回帰分析を行った。

以上の方法を用いて態度項目知識項目が各態度因子に及ぼす影響を検討した。これらの

表8 カテゴリーカル回帰分析結果
網掛けは偏回帰係数が有意だった項目

| | 個人的関与 | 肯定的評価 | 社会的関与 | 否定的評価 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| vn01 障害児出生 | 0.011 | 0.032 | 0.007 | 0.074 |
| vn02 障害者手帳 | 0.008 | 0.841 | 0.228 | 0.374 |
| vn03 盲導犬信号識別 | 0.140 | 0.072 | 0.000 | 0.097 |
| vn04 言障出現時期 | 0.939 | 0.000 | 0.769 | 0.047 |
| vn05 聴導犬 | 0.655 | 0.004 | 0.485 | 0.016 |
| vn06 統合失調症 | 0.002 | 0.000 | 0.528 | 0.034 |
| vn07 養護学校種類 | 0.000 | 0.423 | 0.432 | 0.000 |
| vn08 筆談有効性 | 0.034 | 0.073 | 0.101 | 0.561 |
| vn09 グウン症症状 | 0.129 | 0.163 | 0.601 | 0.395 |
| vn10 障害出現率 | 0.020 | 0.054 | 0.603 | 0.888 |
| vn11 雇用義務 | 0.145 | 0.260 | 0.345 | 0.147 |
| vn12 吃音分類 | 0.172 | 0.969 | 0.425 | 0.271 |
| vn13 手話世界共通 | 0.351 | 0.051 | 0.542 | 0.192 |
| vn14 精障児童期名 | 0.788 | 0.118 | 0.155 | 0.151 |
| vn15 養学入学条件 | 0.743 | 0.074 | 0.831 | 0.348 |
| vn16 視障者杖誘導 | 0.126 | 0.418 | 0.022 | 0.279 |
| vn17 グウン症顔 | 0.024 | 0.549 | 0.854 | 0.034 |
| vn18 障害者犯罪率 | 0.007 | 0.003 | 0.030 | 0.022 |
| vn19 障害年金娯楽使 | 0.544 | 0.413 | 0.538 | 0.003 |
| vn20 視障者夜間照明 | 0.145 | 0.848 | 0.091 | 0.000 |
| vn21 肢不原因 | 0.723 | 0.382 | 0.211 | 0.649 |
| vn22 聴障者発声 | 0.000 | 0.006 | 0.000 | 0.053 |
| vn23 フリースクール | 0.574 | 0.000 | 0.004 | 0.506 |
| vn24 車いす段差移動 | 0.702 | 0.022 | 0.661 | 0.050 |
| vn25 自閉症主症状 | 0.017 | 0.017 | 0.025 | 0.004 |
| vn26 障害者保護法 | 0.007 | 0.132 | 0.625 | 0.945 |
| vn27 点字漢字表記 | 0.042 | 0.196 | 0.802 | 0.601 |
| vn28 肢不児重複障害 | 0.775 | 0.948 | 0.421 | 0.836 |
| vn29 言障者手話使用 | 0.463 | 0.001 | 0.796 | 0.532 |
| vn30 精障者欠格条項 | 0.377 | 0.224 | 0.087 | 0.376 |
| vn31 特殊学級 | 0.431 | 0.058 | 0.133 | 0.997 |
| vn32 車いすブレーキ | 0.403 | 0.730 | 0.454 | 0.968 |
| vn33 自閉症幼児期病 | 0.000 | 0.048 | 0.536 | 0.021 |
| vn34 身障者補助犬法 | 0.022 | 0.000 | 0.130 | 0.045 |
| vn35 点字ブロック5種 | 0.603 | 0.005 | 0.487 | 0.001 |
| vn36 機能障害 | 0.625 | 0.539 | 0.876 | 0.753 |
| vn37 補聴器効力無 | 0.464 | 0.427 | 0.331 | 0.025 |
| vn38 精神病室施設 | 0.028 | 0.399 | 0.012 | 0.372 |
| vn39 学習内容 | 0.007 | 0.009 | 0.312 | 0.090 |
| vn40 措置制度 | 0.001 | 0.056 | 0.000 | 0.037 |
| vn41 紙幣視障者用印 | 0.157 | 0.459 | 0.009 | 0.254 |
| vn42 てんかん感染 | 0.176 | 0.207 | 0.015 | 0.285 |
| vn43 脱健着患 | 0.697 | 0.022 | 0.297 | 0.377 |
| vn44 全視障者点字打 | 0.265 | 0.000 | 0.179 | 0.750 |
| vn45 うつ病者励まし | 0.208 | 0.445 | 0.021 | 0.647 |
| vn46 養学入学義務 | 0.931 | 0.356 | 0.016 | 0.370 |
| vn47 電動義足 | 0.843 | 0.009 | 0.205 | 0.363 |
| vn48 法律上障害区別 | 0.752 | 0.001 | 0.103 | 0.840 |
| vn49 養護学校無県 | 0.001 | 0.252 | 0.002 | 0.002 |
| vn50 障害年金額 | 0.023 | 0.091 | 0.906 | 0.061 |
| vn51 点字ブロック規格 | 0.760 | 0.450 | 0.245 | 0.359 |
| vn52 視障者信号機音 | 0.239 | 0.001 | 0.323 | 0.040 |
| vn53 てんかん知障害 | 0.343 | 0.748 | 0.001 | 0.000 |
| vn54 知障者痴呆 | 0.803 | 0.396 | 0.094 | 0.364 |
| vn55 障害性差 | 0.263 | 0.480 | 0.255 | 0.030 |

| | | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|
| vn56 視障者缶区別 | 0.667 | 0.005 | 0.258 | 0.625 |
| vn57 聴障者専用席 | 0.047 | 0.315 | 0.507 | 0.419 |
| vn58 知障者教育免除 | 0.000 | 0.734 | 0.087 | 0.004 |
| vn59 イントネーション | 0.161 | 0.008 | 0.029 | 0.428 |
| vn60 健・障者区別 | 0.600 | 0.002 | 0.174 | 0.629 |
| vn61 点字世界共通 | 0.809 | 0.074 | 0.029 | 0.107 |
| vn62 知障調査テスト | 0.003 | 0.010 | 0.415 | 0.119 |
| vn63 視障者歩道橋 | 0.108 | 0.207 | 0.286 | 0.994 |
| vn64 知障者人数 | 0.080 | 0.010 | 0.000 | 0.370 |
| vn65 視障者杖携帯 | 0.231 | 0.125 | 0.197 | 0.000 |
| vn66 点字等間違い | 0.069 | 0.903 | 0.054 | 0.218 |
| vn67 障害者用トイレ | 0.735 | 0.002 | 0.097 | 0.056 |
| vn68 視障者杖の色 | 0.016 | 0.433 | 0.132 | 0.304 |
| vn69 点字の点数 | 0.000 | 0.009 | 0.264 | 0.289 |
| vn70 盲導犬着衣 | 0.042 | 0.780 | 0.568 | 0.235 |
| vn71 ADHD | 0.448 | 0.044 | 0.010 | 0.121 |
| vn72 UD | 0.041 | 0.155 | 0.536 | 0.873 |
| vn73 療育手帳利用者 | 0.855 | 0.439 | 0.534 | 0.013 |
| vn74 ノーマリゼーション | 0.067 | 0.817 | 0.601 | 0.268 |
| vn75_1 エレベータ鏡 | 0.732 | 0.157 | 0.542 | 0.085 |
| vn75_2 カード丸穴 | 0.545 | 0.067 | 0.609 | 0.053 |
| vn75_3 ATM 電話 | 0.041 | 0.500 | 0.489 | 0.923 |
| vn75_4 ノック式ペン | 0.435 | 0.305 | 0.730 | 0.483 |
| vn75_5 シャンプーボトル | 0.055 | 0.061 | 0.758 | 0.424 |

2つの方法でも、また、個別に発達の傾向の
見られる項目の比率を検討しても、一貫して、
一般知識、社会知識、共生知識の順に障害者
に対する態度に関連が強いことが示された。
しかしながらそれらの関連性の程度は現状の
ままの項目ではそれほど大きくはない。

今後さらなる知識項目の取舍選択および追
加が必要であるが、その際の資料として今回
の結果を勘案すべきであろう。すなわち、予
想外であったが、障害者に対する受容的な態
度は、共生に関する知識よりも、障害に対す
る一般的な知識と関連する傾向が見られたた
め、今後は障害そのものに関する知識項目を
増やすほうが目的に合致することになる。

なお、個別に変数を検討することは笹尾
(2004)で行われた。そして、本研究は笹尾
(2004)の卒論で得られたデータを再分析した
ものである。

[文献]

アイゼンク.H.J著 広田君美・永田良昭訳
(1964)「あなたのIQは？」,誠信書房。

Donaldson, J. (1976) 「Channel variations and effects on attitudes toward disabled persons」, *Audio-Visual Communication Review*, 24: 135-143.

Henry, J. (1957) 「Attitude organization in elementary school classrooms」. *American Journal of Orthopsychiatry*, 27: 117-133.

Higgs, H. R. (1975) 「Attitude Formation-Contact or Information?」 *Exceptional Children*, 41: 496-497.

藤原武弘 (2001) 「社会的態度の理論・測定・応用」
関西学院大学出版会。

井上孝徳・梅田寿生・田代菊雄・本保恭子・佐藤比佐恵・佐藤有子・江草安彦 (1979) 「宮崎県下高校生の精神薄弱児に対する意識調査」, *旭川荘研究年報*, 11: 24-30.

石川桂司 (1992) 「映画による態度変容の研究」,
風間書房。

Jordan, F. E (1971) 「Construction of a Guttman facet designed cross-cultural attitude-behavior scale toward mental retardation. *American Journal of Mental Deficiency*」, 84: 137-144.

川口雄太 (2003) 「障害者への受容的態度と知識の関連」, 北星学園大学 2003 年度卒業論文。

川間健之助 (1996) 「障害をもつ人に対する態度——研究の現状と課題——」, *特殊教育学研究*,

- 34：59-68.
- 河内清彦・徳田克己（1988）「視覚障害者の心理と指導」, 日本児童研究所編 児童心理学の進歩 20 卷 1990 年版第 10 章, 金子書房.
- 河内清彦（1990）「肢体不自由者（児）に対する大学生の態度構造とその形成要因としての専攻学科および性別の役割について」, 特殊教育学研究, 28：25-35.
- 三沢義一（1971）「身体障害者（児）に対する態度とその比較文化的考察」, 特殊教育学研究, 9：27-33.
- 三沢義一（1984）「障害者の教育と心理」, 光生館.
- 三沢義一（1985）「障害と心理 リハビリテーション医学講座 9」, 医歯薬出版.
- 生川善雄（1995）「精神遅滞児（者）に対する健常者の態度に関する多次元的研究——態度と接触経験, 性, 知識との関係——」, 特殊教育学研究, 32：11-19.
- Sandler, A. and Robinson, R. (1981) 「Public attitudes and community acceptance of mentally retarded persons: A review. Education and Training of the Mentally Retarded, 16: 97-103.
- 笹尾絵梨（2004）「障害者に対する受容的態度と関連する知識項目作成の試み——高校生・短大生・大学生を対象として——」, 北星学園大学 2004 年度卒業論文.
- 菅原玲奈（2003）「映像法による障害者に対する態度変容効果」, 北星学園大学 2003 年度卒業論文.
- 障害者差別禁止法制定作業チーム（2002）「当事者がつくる障害者差別禁止法——保護から権利へ——」, 現代書館.
- 徳田克己（1990a）「視覚障害児・者に対する一般人の態度を改善するための技法とその評価」, 視覚障害心理教育研究, 7：5-22.
- 徳田克己（1990b）「障害児・者に対する態度を測定するための多次元的态度尺度の開発(1)——全体構成と妥当性の検討——」, 桐花教育研究所紀要, 3：21-29.
- 徳田克己（1990c）「聴覚障害者に対する態度変容における映像法の効果」, 筑波大学心身障害学研究, 15：1-9.
- 田中敏（1996）「実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成」, 新曜社.
- 豊村和真（2004）「障害者に対する受容的態度と知識の関連について」, 日本社会福祉学会第 52 回発表論文集, 118.
- 豊村和真（2005）「障害者に対する受容的態度と関連する知識項目作成の試み(1)」, 日本特殊教育学会第 43 回発表論文集.
- 豊村和真・菊池麻里（2007）「視覚・聴覚障害学生に対するイメージの意味構造——中学生・高校生・大学生についての検討——」, 北星論集, 44：1-14.
- 豊村和真・佐藤真衣子（2008）「障害者に対する態度に関する横断的研究(1)」, 北星論集, 45：77-87.
- 山際勇一郎・田中敏（1997）「ユーザーのための心理データの多変量解析法——方法の理解から論文の書き方まで——」, 教育出版.
- 山内隆久（1982）「協同事態における対人的態度の研究——晴眼者と盲人の協同事態による検討——」, 心理学研究, 53：240-244.
- 山内隆久（1984）「視覚障害児に対する態度の変容に及ぼす対人的接触の効果」, 教育心理学研究, 32：233-237.
- 柳井久江（2005）「エクセル統計実用多変量解析編」, オーエムエス出版.

[Abstract]

A Cross-sectional Study of Attitudes Toward a Handicapped Persons (2)

Kazuma TOYOMURA
Eri SASAO

The attitude toward hanndicapped people was studied. Subjects were 798 people in total from high school children to university students. Four factors - a personal participation factor, a positive evalution factor, a social participation factor, and a negative evalution factor- were extracted as attitudes toward handicapped people. And Knowledge about the handicapped was also studied.

The relationship of these factors and the knowledge were studied by canonical correlation analysis and categorical multiple regression analysis.